

総合資源エネルギー調査会 資源・燃料分科会（第 26 回）

豊田委員 提出資料

1. 米露は主要な LNG 供給源であるだけでなく、今や、石油供給国として、中東に偏っている石油供給多角化という観点からも重要。製油所との適合性や中国との競合という点はあるが、両国は今後も増産ポテンシャルがあり、輸入量を増やしていくのが望ましい。
2. アジアの国営石油会社が中東の国営石油会社と組んで製油所を建設することが多くなっている。このうち、中国では、国営石油会社の市場支配力が強く、技術流出が懸念材料とされている。このため、アセアン、インドを中心に、日本の石油産業にとっての戦略的なアプローチは何かを考える必要がある。また、過剰な規制がある場合など、政府間での協議により、緩和を促していくことが重要である。
3. 燃料供給インフラへの AI・IoT の活用は、供給インフラを一体的に監視することを可能とし、議事(2)での燃料供給強靱化の分野においても有用ではないか。例えば、石連がイニシアティブを取って、AI・IoT を活用して供給インフラや、主要需要家を一体的に連携・相互監視するシステムを構築し、さらなる供給強靱化につなげては如何か。
4. 人口光合成やメタネーションなどカーボンリサイクルに関して、安倍総理自らがダボス会議で言及されたことは意義深い。弊所も中東の国営石油会社と様々な協力しているが、彼らも自国の石油・ガス資産を座礁化させないために、カーボンリサイクルに熱心である。日本も資源外交の一環及び石油・ガス産業の新たな方向性としてカーボンリサイクルや、化石燃料ベースのゼロ・カーボン水素の開発利用という発想が重要ではないか。カーボンリサイクルに向けた技術開発については、化石燃料に係る技術に知見のある JOGMEC も関与を強めることが望まれているのではないか。